

地域を支える高齢者福祉施設・社会福祉法人と都民を結ぶ

アクティブ福祉

第58号

2024年8月発行

社会福祉法人東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会 機関誌



高齢協
ウェブサイト
はこちら♪



特集

大規模な水害対策に備えて

*今号では特集をはじめ、「災害・防災」をテーマとした内容を前半に盛り込んでいます。

東京ケアリーダーズが行く！ うわさの施設 …………… 7



▲うわさの施設 グランプリ 2023「コラム部門」最優秀賞
ほうらい地域包括支援センター



▲うわさの施設 グランプリ 2023「レシピ部門」最優秀賞
東京弘済園

新コーナー

#介護の魅力を発信してみた …………… 12

- 養護分科会トピックス …………… 4
- 軽費分科会トピックス …………… 5
- センター分科会トピックス …………… 6
- 高齢協トピックス …………… 9
- Join us！イベントのご案内 …………… 10
- 教えて！福祉・介護の「学校」 …………… 11

- 専門委員会リレートーク …………… 13
- 東京ケアリーダーズ活動紹介 …………… 14
- 職員研修会トピックス …………… 15
- 福祉・介護の魅力にまつわる
なんでもエピソード …………… 16
- 編集後記 …………… 16

予測できない水害の恐ろしさ

今から8年前の平成28年8月22日に青梅市東部一帯に台風9号が発生しました。1時間当たり107ミリという強大な集中豪雨によって、地域全体が急激に増水し、青梅療育院の施設全体が床上40cmの浸水被害を受けました。

雨は午前11時半頃から降雨が激しくなり、12時10分頃から急激に施設周辺に浸水が始まり、事前に周囲を土嚢で防御していましたが水勢が強く、泥水が一気に施設内に流れ込み、12時40分には床上40cmまで達し、機器等が泥水を被り機能停止の状態となりました。

15時には降雨が小康状態となり、徐々に流入した泥水も引きはじめて、16時頃には浸水は引きましたが、床一面に泥水が滞留する状態になりました。今までに多量の降雨時の際にも建物内に雨水が浸水するような被害は無かったために、玄関や他の出入口には土嚢を2段積みにして対応していましたが、当日の降雨は今までに経験したことのないような豪雨であったために、予想をはるかに超えた災害を被ることになってしまいました。

なぜこのような水害が発生してしまったのかを検討したところ、施設の周辺地域は昔から「水窪」という地名であり、今から60年前には一帯が窪地になっていて、雨水の滞溜池もあった地域でした。



▲食堂へつながる廊下



▲床上40cmの冠水

しかし50年前の1975年頃から青梅市東部地域に、工業団地の造成を主体とした土地区画整理事業が行われ、今まで農地や山林であった地域が急激に市街地化が進みました。そこに住宅建設のため、施設周辺一帯の地域の宅地開発が急速に進み、現在では施設周辺が住宅地として形成されています。

ところが、雨水処理の機能が完全に整備されていないため、降雨量によっては周辺の道路が冠水し、交通不能となる事態は常に心配される地域となりました。このような地域であることから、気象情報には常に気を配りながら多量の降雨情報が心配される場合には、施設周辺に土嚢を積んで浸水対策に備えていました。しかし、当日の降雨量は予想をはるかに超えるものであり、短時間での急激な増水に対処する余裕がなく、機器や書類等の搬出も間に合わず、電気系統や通信機能もすべて使用不能の状態になってしまいました。

床上浸水が始まったのが12時30分頃でしたが、1階の食堂で昼食を取られていた利用者様は、全員が2階・3階の居室に戻られた直後であったために、利用者様には特に事故などの発生はありませんでした。また幸いなことに2階・3階の電気と水道の機能に異常はなく、平常通りの使用が可能であり、介護支援に大きな支障が発生することもなく、精神的負担が少なかったことがなによりでした。

しかし1階は泥水の冠水により、厨房器具はすべて再使用することができず、給食業務は停止状態となってしまい、当日の夕食から給食業者に委託すること



▲予想を上回る雨水の侵入



▲冠水直後の事務室前



▲清掃、復旧のため、冠水して使用できなくなった物品を全て屋外に出した様子

となりました。青梅保健所からの指導もあって一か月間の消毒・清掃期間を置くよう指示があり、9月23日まで調理業務は中止になりました。

また、機械浴槽も電気系統の破損によって使用不能となり、一般浴室を使用しながら入浴を行い、洗濯機もすべて使用不能となったため、市内の特養施設の協力を頂いて洗濯機を借用しながら業務を行っていましたが、一週間程で機器の復旧ができたことにより通常の体制に戻ることができました。

事務所内の書類や倉庫内の書類も一部浸水の被害に会い、パソコンも電気配線の冠水により使用不能となり、事務処理も一週間停滞してしまいました。

この冠水被害の処理に関しましては、被災の情報を知り、市内の特養施設から毎日20名程の職員が、施設内の片付けや清掃に積極的に協力して下さいました。そのおかげで10日程で元の業務体制に復旧することができ、多くの皆様の暖かいご支援に深く感謝しております。特に特定非営利活動法人の「チーム絆」の皆様には災害発生当初から、施設内の消毒・清掃等に献身的なご協力をいただき、業務再開への大きなご支援を頂いた事に感謝しております。

この災害に関して復旧に要した経費は約4,000万円になりました。大きな反省点として火災保険に加入しておりましたが、被災規模がこのように大災害になることを予測していなかったために、被災額が契約している補償基準に達していなかったことから、全体で140万円しか補償が受けられませんでした。

水害への防災対策

急激に予測できないような災害が発生しますと想定外の事が起こり、事前の決め事どおりに行かない事がほとんどです。施設には100名の利用者様が生活されている訳ですから、災害が発生したからと言って介助を放棄することはできません。食事の提供、医薬品の供与など生命の維持に関わる問題は、必要最低限の重要課題として確保しなければなりません。

これからは予測できない風水害や地震に対して、より一層の防災対策が必要となってきますので、この経験をもとに改めて防災への強化に取り組んでいくことにしています。

昔から「災害は忘れた頃にやってくる。」と言われていましたが、地球全体の温暖化による気象変動によって、大災害は平常化して発生するようになってきています。万一災害が発生した場合に避難行動が困難な利用者様に対しては、支援を頂くために地域住民の応援体制が必要であることを痛切に感じました。

このような災害発生などの緊急事態に対応するために、特養施設と地域住民が連携して、災害発生時における取り組みを訓練を通して進めていくことが必要です。「大規模災害発生時における地域との相互応援協定」を締結し、万一災害が発生した場合には避難対策に対して地域住民の協力をお願いすることとしたり、地域の住民が被災した場合の避難場所として施設を利用できることや、食料や医薬品についても施設が確保している物資の応急的な支援に協力するなど、相互の災害応援体制を図ることになっています。

また、市内の特養施設に緊急事態が発生した際には、相互支援を行っていくために5施設で「災害発生時相互応援協定書」を締結して、お互いの防災対策の強化を図ることを定めています。

青梅療育院の真下には立川断層という地震を誘発する地層があるそうです。立川市の砂川町から瑞穂町を経て青梅市東部を通り、埼玉県名栗村に至る約30キロにわたる区間と言われてはいますが、過去における地震発生記録は定かではありません。しかし施設が地震断層の上にある訳ですから、将来にわたってどのような大地震の発生が起こるかを心して、防災計画にもとづき常に真剣な心構えで人命の安全を守る防災対策に取り組んでまいります。



高齢者施設における 災害への取り組み

社会福祉法人 長寿村 潮見老人ホーム

こばやし まゆみ
施設長 小林 真弓



近年は大規模な地震や台風のみならず、大雨等の暴風による被害も多くなってきています。

施設や居住地において毎年、避難訓練を実施してはいますが、災害は、“絶対ここは大丈夫”という確証はなく、いつ・どの場所に起こるか分からないのも事実なので、いざという際、どのようにすれば入居者様は勿論、自身や家族の身を守れるのか。現実的にはなかなか考えにくい事ではありますが、“明日は我が身”と思い、日頃から災害への意識を高め、備えの確認も怠る事なく、職員同士・家族間においても時間がある時に基本ルールを全員、頭に叩き込んで置く事も重要と考えます。

施設や自宅周辺のネットワーク概要の把握も大切なことと考え、避難場所や公共機関・施設などの連絡先を取りまとめ、いつでも誰でも随時、確認出来るよう備えておきたいものです。

また、施設管理者として、職員各々の通勤経路や家族環境も頭に入れ、万が一の場合には配慮にも善処に努めたいと考えております。

養護老人ホームの必要性

私は2020年4月、新型コロナウイルス感染症の驚異的蔓延で初の緊急事態宣言が発令された月の着任で4年目を迎えておりますが、今でも時折、見る事や報告に驚きを隠せない事案があります。着任当初はほぼ毎日が驚きの繰り返しでした。

実際、莫大な借金を背負い、家賃を払えず生活に困窮し破産手続きをする方や、精神疾患がある方、家族から同居を断られ預金もない方、婚姻相手や実子や孫からの虐待を受けた方、集団生活に適応できず毎日トラブルを起こす方など、身体的には自立されていても、お一人での生活は困難な方が多く入居されている施設が【養護老人ホーム】です。

養護老人ホームの入居要件は、お住まいの市区町村から、自立している65歳以上でお一人での生活が困難と判断された方が対象となっております。老人ホームとの名称の為、いわゆる特養と同様との認識をされる方も多く、逆に養護の低い認知度をいつも痛感し、残念に感じております。

身体介護ではない養護老人ホームですが、養護をご存知ない方も、是非一度、見学にお運び頂ければ、養護老人ホームの在り方・大切さを理解頂けることと存じます。



当施設の現状

(福)長寿村 潮見老人ホームは2001年に東京都が設立し、当法人にて運営している公設民営でグループ内唯一の養護老人ホームです。

また2021年度までは入居率100%を維持出来ておりましたが、2022年度は99.3%、2023年度は96.4%と、年々、毎月、安定した運営に危機感の高まりを拭えません。積極的に市区町村の予算を見直し措置費の改善をして頂ければ、各養護老人ホームもこれほど厳しい運営状態には陥らないはずと考えます。

そんな中ながら、試行錯誤しつつ“ベスト”でなくとも“ベター”な案を検討模索し、少しでも長く施設での生活を元気に継続させ、一人でも多くの入居者様の笑顔を増やすべく奮闘していきます。

潮見老人ホーム
ホームページ▶





軽費老人ホームにおける 災害における日頃からの取り組み

社会福祉法人福栄会 東海ホーム

生活相談員 さくらい ひろこ
櫻井 博子

東海ホームの紹介

東海ホーム（サービス種別「軽費老人ホーム」）は品川区東品川にある高齢者福祉サービス、障害者福祉サービスの複合施設の中の1つです。

軽費老人ホームは自立の施設の為、夜間は夜勤者ではなく、緊急時のみ宿直者で対応しています。宿直者は同じ建物内の他部署の職員も対応してくれています。そのため、災害が起こった際など、利用者の特徴が解らないと的確な支援ができないという事が起こります。

他部署の職員への取り組み

当施設では、災害が起こった際に他部署の職員が利用者の特徴が少しでもわかるように、居室入口上に利用者の移動手段を記号で示したマグネットを貼ったり、宿直用の日誌ファイルに個人情報に十分に配慮した利用者個々の身体の特徴などを明記し少しでも他部署の職員が利用者を理解できるよう取り組んでいます。

また、月に1回の防災訓練では火災、地震以外にも、目黒川が近くを流れていることもあり自然災害（洪水）の訓練も含め、少人数での職員の動きや、物品の保管場所や設置場所の確認にも力を入れています。

さらに、利用者には外出時に緊急連絡カードの持参を促し、外出先での災害にも備えています。



▲利用者の移動手段を表示



▲訓練の様子

法人全体の取り組み

年に1回、BCP訓練の一環として炊き出し訓練を実施しています。全部署から職員が参加し、火起こし練習から、災害用の食品を使いおにぎりを作ったり、起こした火で豚汁や焼き芋を作って、地域の方に配布したり、災害が起きた際に段取りよく対応できる訓練を実施しています。

今後の課題

複合施設だからこそ、他部署と力を合わせて取り組める事もありますが、他部署の職員が利用者の把握が出来ていない為、スムーズに対応できない事も考えられます。

今後の課題としては、災害時、東海ホームに応援にかけつける職員が、手早く、的確に対応できるよう、さらに工夫を重ねて継続した訓練を実施し、災害への備えを丁寧に進めていきます。

東海ホーム
ホームページ▶



東京ケアリーダーズが行く！

うわさの
施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約1200施設・事業所）のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験を持つ施設を紹介するコーナー。毎回「うわさ」の施設を東京ケアリーダーズが取材します。

今回は、高齢者福祉施設での日常のさまざまな場面にスポットライトを当てながら、介護の魅力を発信する「東京の介護ってすばらしいグランプリ（以下、東すば）」2023において、最優秀賞を獲得した施設にお話を伺いました。

その31

東京の介護ってすばらしいグランプリ2023 コラム部門 最優秀賞

社会福祉法人 清峰会 ほうらい地域包括支援センター はべきよひさ 羽部 清久さん

作品名：Nさんとのヒ・ミ・ツ

2023年の東すばコラム部門では、関係性を築く介護の面白さを軽快でユーモアある文体で表現した点などが評価された当作品が最優秀賞を受賞しました。ほうらい地域包括支援センターの羽部清久さんにお話を伺いました。

— ご受賞おめでとうございます。受賞の感想や周囲の反応をお聞かせください

何よりも受賞に驚きました。周囲では家族や友人、Nさんがいらした前職の特養の施設長などに報告しました。前職の施設長からは、「職場体験に来てくれた中学生に渡して読んでもらっています。」と返信をいただきました。

— Nさんとの関わりはどのようなものでしたか

私が介護現場で最初に担当した方の一人です。当時私は新人で仕事を覚えることに必死で、ご利用者に弱音を言うてしまったような職員でしたが、逆にそれがNさんが心を開くきっかけになったのかもしれません。「ここに来てよかった」と本人とご家族に感じていただけることを心がけ、普段の接し方を意識しました。

— 羽部さんの意識や日常で築いた関係性があったからこそNさんの優しい言葉があったんだと思います。コラムの構成で意識したことはありますか？

過去、介護記事を書いていたことがありますが、WEBだと先に結論を書かないと離脱してしまうので、結論→理由→例示→結論の流れを意識しました。流し読みできるような固すぎない文体で楽しい気持ちになれるような展開を心がけました。

— 今後グランプリに応募される方へのアドバイスをお願いします

私が言うのも僭越ですが、何かを伝えるためには素直な想いを発する事が大事だと思います。また、不特定多数の人ではなく、今回ならNさんのご家族など、伝えたい特定の誰かが喜ぶイメージを持って書くとういことだと思います。特別な出来事がなくても、日常から介護のすばらしさを伝えることができると思います。

— 今後どういう発信をされていきたいですか

現在の勤務先の地域包括支援センター（以下、包括）は今もなお包括の認知度が低く、区独自の支援も含め発信したいです。また、家族介護をされている方に対し、時に反応がなく辛いと思いますが、反応がなくても声は届き感謝されていること、献身的な介護が命も心も救っていることを伝えたいと思います。

— ご家族と接するときに意識していることはありますか

ケースバイケースですが、私が責任をもってケアをしますので安心してくださいと伝えるようにしています。

— 包括から、現場に期待することはありますか

よいケアの提供のためには職員間の仲の良さが必要です。仲良く楽しく意見をぶつけ合い、意見が異なっても排除せずすり合わせ、互いに高め合ってほしいと思います。自分たちの誇り高い介護の仕事で、それぞれの自分の良さを出してほしいです。

— 私自身、介護の魅力の発信を目指していますが、大変参考になることを学ばせていただきました。本日はありがとうございました。

* 「東京の介護ってすばらしいグランプリ 2023」の受賞結果は特設サイトから
<https://koureikyo.com/>

* この記事のより詳しい内容は高齢協ホームページの「機関誌アクティブ福祉デジタル」でお読みいただけます。
<https://www.tcs.w.tvac.or.jp/bukai/kourei/activefukushi/digital/index.html>

社会福祉法人 清峰会 ほうらい地域包括支援センター

所在地：〒111-0022 東京都台東区清川2-14-7 TEL：03-5824-5626

取材：東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ

鈴木 理恵さん（港区立高齢者在宅サービスセンターサン・サン赤坂）

記録・編集：東京新聞 木下 聡文

ほうらい地域包括支援センター
ホームページ▶



作品名：華やか豆乳担々鍋

2023年の東すばレシピ部門では、華やかな見た目からのワクワク感や細かい細工・気配り、野菜を楽しく食べられそうな点が評価された当作品が最優秀賞を受賞しました。

東京弘済園の調理師の宇野剛さんと栄養士^{たなかひろよ}の田中浩代さんにお話を伺いました。



— メニュー作りでの工夫はありますか

田中：いつも同じメニューだと飽きるので、話題となるような食材を選んだりします。先日ガパオライスに挑戦しました。

宇野：全国の郷土料理にも挑戦しており、二年半かけて国内全都道府県のご当地メニューを提供しました。反響があったメニューは常設化もしています。

— このほか挑戦的な取り組みはありますか

宇野：難しいリクエストもアイデアで解決できることもあり、例えばてんぷらは提供が難しかったのですが、素揚げの素材に天かすを乗せて近い食感を再現しました。

— グランプリに応募する方へアドバイスをお願いします

宇野：召し上がる方の状態を考慮してメニューを作ることが大事だと思います。見た目では他に見られない目新しいものがないと思います。食器の選定も大切ですね。

— 今後の目標をお聞かせください

宇野：新しいことにチャレンジしていきたいです。近々ではそば打ちの実演をできたらとも思っています。

— 栄養士・調理師や現場の介護職の意見を形にしていることがとてもすごいと思います。チャレンジ精神が要望の実現につながるとしますので、私も現場で前向きな姿勢で日々邁進します。本日はありがとうございました。

— 色とりどりでとても素敵な作品ですね。作品のコンセプトをお聞かせください

宇野：華やかな見た目を意識して、普段のメニューにない特別感を出しました。多色の彩を表現できるように食材を選び、食材に様々な細工を施しました。

— 高齢者の食べやすさや栄養面への配慮をお聞かせください

宇野：鍋に入れる食材は事前にすべて火を通すようにしています。豆乳ベースでさっぱりとさせ、食材の長さや厚みも調節しました。野菜をたっぷり使い、鶏肉のうまみを引き出したくて丁寧に汁を取りました。

— 職種間での連携はどのように行っていますか

田中：普段の食事は栄養士が、行事食は調理師が原案を考えます。メニューが決まると介護職と相談して代替食の方のアレンジを考えます。例えばこれは食べにくそう、これはスパイスが効きすぎなど、ご利用者の状況を考慮した意見をもらいます。

— 日常の調理での工夫をお聞かせください

宇野：代替食では食材や調理法は変えても見た目は同じになるようにしています。ご利用者の食事能力に応じて段階を分けた調理方法を行うなどしています。

* 「東京の介護ってすばらしいグランプリ 2023」の受賞結果は特設サイトから
<https://koureikyo.com/>

* この記事のより詳しい内容は高齢協ホームページの「機関誌アクティブ福祉デジタル」でお読みいただけます。
<https://www.tcs.w.tvac.or.jp/bukai/kourei/activefukushi/digital/index.html>

社会福祉法人 東京弘済園

所在地：〒181-0013 東京都三鷹市下連雀5-2-5 ⅴ：0422-43-3319

■取材：東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ ^{なりた うんの} 成田 雲乃さん（癒しの里南千住）

■記録・編集：東京新聞 木下 聡文

東京弘済園
ホームページ▶

高齢協トピックス



『つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO』 ～ 2024 がスタートします！～

社会福祉法人 品川総合福祉センター 品川区立中延在宅サービスセンター 施設長 こやま まきこ 小山 正子

2016年に、誰もが安心して暮らせるまちを目指して『つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO (略称：つなひろ)』がスタートし、回を重ねるごとに参加地域・団体、イベント数も増え、各施設の取り組みが地域の中で様々な繋がりを生み、広がり始めたと感じていました。しかしその矢先、新型コロナウイルスによる感染症が猛威を振るい『つながること、ひろがること』を恐れ、地域との繋がりを閉ざしてしまいました。つなひろのキャンペーンも中止となりました。

でも私たち高齢協の仲間たちは知っているのです「人と繋がること」の大切さを。閉ざされた環境だからこそ手を差し伸べる必要があると、心を繋ぐために何ができるのかと考え、新たなスタイルの交流を始めました。

昨年度、新型コロナウイルスが5類に移行となり、キャンペーンが再開されました。参加事業所の減少やイベント規模の縮小も見られるなか、新たな取り組みを開始した事業所もありました。実践報告会では、参加事業所の中から4事業所の方に発表をして頂きましたが、どの取り組みも地域で出来ることをしようと試行錯誤をしながら作り上げた様子が伝わり、参加者も多くのヒントを得る事が出来たようでした。その後の情報交換会でも、今後に向けた活発な意見が飛び交い、会場は熱気に包まれました。

今年度も9月～11月にキャンペーンを開催します。地域と繋がるために再開するイベントや新たに開始する取り組み等、地域住民に寄り添うことが趣旨の活動であれば、どのような取り組みでも参加可能です。『福祉』の専門職である私たちだからこそ出来ることを地域のために行い、キャンペーンを通して一斉に発信することで社会福祉法人の信頼と評価を勝ち取りましょう！



▲ 2023年度の広報グッズ



▲令和5年度実践報告会の様子

Join us! イベントのご案内

第19回高齢者福祉実践・研究大会

アクティブ福祉 in 東京'24



2024 9/25 水

10:00~15:40

会場/京王プラザホテル

大会スケジュール

9:45	開会 □ 演発表	▶ 10:00 ~ 14:00 【企業展示ブース】 福祉関係の機器・商品等を取り扱う企業が出展します
10:00	パワーポイントを使用して15分間で発表します (休憩 11:40 ~ 13:00)	【東京ケアリーダーズ企画ブース】 現場で働く若手介護職員と直接話すことができます
14:15	ステージイベント	【企業展示ブース】
14:30	加藤 綾菜さん登場!	【東京ケアリーダーズ企画ブース】
15:10	表彰式 □ 演発表の優秀な演題を表彰します	
15:40	閉会	

ステージイベント

14:30 ~ 15:40
司会進行/フリーアナウンサー 町 亞聖さん
加藤 綾菜さん 登場!

2011年に加藤茶さんと結婚。年齢差が45歳で年の差婚として話題になるもパッシングを受け続けたが、結婚生活14年目を迎え献身的に支える姿に世間の声は180度変わった。今では年の差婚ならではの料理の秘訣やコミュニケーションの取り方だけでなく、彼女自身のライフスタイルを中心に加藤流の考え方が注目されている。



参加費 【一般】6,000円 【学生】1,000円

参加申込

アクティブ福祉'24

検索



大会の内容に関する連絡先: アクティブ福祉 in 東京 事務局

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 福祉部高齢担当 〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸 1-1
Tel: 03-3268-7172 Fax: 03-3268-0635 E-mail: kourei@tcsw.tvac.or.jp

主催: 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都高齢者福祉施設協議会
アクティブ福祉 in 東京実行委員会

後援: 東京都
公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 東京部会
一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
一般社団法人 東京都老人保健施設協会
公益社団法人 東京社会福祉士会
公益社団法人 東京都介護福祉士会
特定非営利活動法人 東京都介護支援専門員研究協議会

共催: 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会
東京都介護保険居宅事業者連絡会

日本介護福祉学会
日本福祉介護情報学会
一般社団法人 日本在宅介護協会 東京・北関東支部
公益財団法人 東京都福祉保健財団
公益社団法人 東京都看護協会
公益社団法人 東京都栄養士会



福祉・介護の学校

高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉 in 東京（以下、「アクティブ福祉」）」では、施設職員だけでなく学生の口演発表も行われ、多くの学生にご参加いただいています。高齢者福祉の今後の担い手となる学生たちに、学びや経験を深めていただくとともに、都内施設が行う、より良い介護を目指した魅力ある取り組みを伝える機会となっています。

アクティブ福祉に例年ご参加いただいている福祉・介護人材を養成する学校に、学校の紹介とともに、アクティブ福祉への参加の経緯や学生の反応について教えていただきます。今号では、日本社会事業大学 社会福祉学部より、寄稿いただきました。

日本社会事業大学 社会福祉学部

日本社会事業大学の紹介

日本社会事業大学は、厚生労働省の委託を受けて指導的社会福祉従事者の養成を行っている唯一の大学です。終戦直後の1946年に日本社会事業学校として開学し、それ以来、現在までの78年間にわたり福祉系大学のモデル的役割を果たしています。

社会福祉学部のみ単科大学（四年制）ですが、大学院（博士前期・後期課程）や、福祉現場の方々など社会人が多く学んでいる専門職大学院と通信教育科が併設されています。学部は福祉計画学科と福祉援助学科の2つの学科から構成され、社会福祉士・介護福祉士等を養成しています。主たるキャンパスは清瀬キャンパスです。あまり知られてはいませんが文京キャンパスもあり、専門職大学院の授業が行われています。

学部生は全学年で約800名、大学院生等を含めても900名弱です。入学前の段階から福祉専門職を目指す学生が多く、約9割が社会福祉分野へ就職・進学します。また、卒業生の4人に1人が公務員として就職しています。

「アクティブ福祉 in 東京 '23」に参加した効果

2023年4月からキャンパス内の空閑地を開墾し、永嶋ゼミの学生たちが他のボランティア学生とともに世代間交流活動をおこなう拠点づくりを始めました。高齢者と子どもだけではなく、子ども（保育園児）の保護者、近隣住民、大学生等の多様な人たちが、農作業や園芸活動を通して自然に交流できるような活動を実施することで、地域共生社会の構築に寄与することを目指しています。

これまでの活動と将来の構想を整理して発表することにより、学生それぞれの今後の課題がより明確になり、卒業研究や進路選択の参考になったようでした。

高齢者福祉施設・事業所の皆様への期待

本学は研究機関であるとともに、福祉専門職を養成する教育機関です。本来、福祉教育・研究と福祉現場の取り組みは一体不可分の関係にあると考えます。学校と施設という違いはありますが、今後は共同で発表ができると思います。



▲大学外観



▲発表時の様子

#介護の魅力を発信してみた

東京の介護ってすばらしい
グランプリ 2023
写真部門



「コンチクショ〜!!」

特別養護老人ホーム今井苑 施設長 きしだ まさし 岸田 全史



東京の介護ってすばらしいグランプリの参加の経緯について

2021年度からグランプリに参加しており、コロナ禍ということもあり面会も自粛となり施設内が閉鎖的な状況となったことにより、外部の方々に施設内での様子や魅力をお伝えしたいとの思いで参加致しました。

受賞した感想について

職員と利用者との行事での盛り上がった一瞬、笑いあった一瞬は、その場にいる者しか見ることができないため、その貴重な瞬間を写真に残せたこと、また介護の魅力発信に対して微力ながら貢献できたことは大変うれしく思います。

今までの結果として、写真部門では3年連続で賞を頂くことができ、偶然にも2022年と2023年の賞を頂いた写真のご入居者はたまたま同じ方だったことにも驚いています。

今後も、写真にて介護の魅力を多くの方々へお届けしたいと思います。

東京の介護ってすばらしい
グランプリ 2023
写真部門



「ハロウィンバンパイアでギャー！」

あやせコミュニティパーク 施設長 すぎやま しょうこ 杉山 詳子



この度、「東京の介護ってすばらしいグランプリ 2023」にて受賞の栄誉を賜り、大変光栄に思っております。今回の作品は、ハロウィーンのドラキュラに仮装した職員とデイサービスのご利用者様が思いっきり笑う瞬間を捉えたものです。本格的な仮装の華やかさと、ご利用者の満面の笑顔が、心温まるひとときを演出しています。

参加のきっかけは、日々の活動の中でご利用者との楽しい瞬間をより多くの方に伝えたいと思ったからです。受賞の知らせを受けた時は驚きと共に、仲間たちとの楽しい思い出が形になったことに大変感銘を受けました。

これからも、あやせコミュニティパークでは、ご利用者様に寄り添いながら職員の笑顔が溢れる場面をたくさんカメラにおさめ、皆様に届けられるよう努めて参ります。

専門委員会リレートーク

第25回 人材対策委員会

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会*に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えたい情報を伝えるページです。

人材対策委員会 委員長
 社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホームミンナ
 園長 諏訪 逸



恒常的な介護人材不足と向き合いながら

私がこの委員会に携わって5年余りが経過しますが、年々深刻化する「介護人材不足と確保難」という闇は深く、委員の皆さんともども「暗中模索」が続いています。

特に「職員採用」の面では、介護という仕事の意義・やりがい・素晴らしさは各方面に浸透してはいるものの、現行制度に基づく経営では、給与面における民間企業との差が縮まらないことなどが応募につながらない要因となり、人手不足に拍車をかけています。

その解決策については手詰まり感さえ覚える今日この頃。それでも当委員会では一人でも多くの介護人材の確保、また今働いている職員の離職防止に向けさまざまなPR・研修会・勉強会等を企画・実施しています。中でも、日々職員採用に奮闘する方々が集まる「採用担当者研修」は、採用ツールや年間のフロー、成功事例や日頃の悩み等について、同じ立場で情報交換ができる貴重な場となっています。また介護福祉士養成校との「合同学習会」は、学校側の現状や想い、学生・外国人留学生、職場で職員育成に携わる先輩職員等の生の声を通じて、学生や新人職員目線に立ったアプローチ、働きやすい環境づくり等について、受入れ施設側の意識改革にもつながる良い機会となっています。

深い闇を抜け出すのは容易ではありませんが、今後も委員の皆さんと手を携え、知恵を出し合いながら少しでも明るい光を見出せればと思います。



▲採用担当者研修の様子

外国人介護職員との協働

今年度人材対策委員会では、会員施設の皆様に向けて外国人介護職員の雇用状況調査を実施します。3年前に実施した同調査では、外国人介護職員を採用している会員施設は4割程度でしたが、この3年でその数は大幅に増えたのではないかと推察します。今や高齢者の生活支援には欠かせない存在となっており、協働・共生の流れは更に進むものと思われます。調査へのご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

*制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。



東京ケアリーダーズ

活動紹介



東京ケアリーダーズとは？

東京都内の高齢者福祉施設・事業所で働く若手介護職員によるユニット「東京ケアリーダーズ」。メンバー全員が特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの高齢者福祉施設で働く現役の介護職員です。自分たちの言葉で「介護の仕事の魅力」を伝えることを目的に活動しています。

～外部での活動によって得られたもの～

社会福祉法人 白十字会 特別養護老人ホーム白十字ホーム 介護士

東京ケアリーダーズ **よしおか** **しょう**
吉岡 **聖**

皆さんこんにちは。東京ケアリーダーズの吉岡です。

私は東京ケアリーダーズに所属しまだ1年で経験は浅いですが、参加できたことでたくさんのご縁をいただいたと思っています。

現在、東京ケアリーダーズでは杉本浩司さんをアドバイザーとして、研修会を定期的開催しています。その研修会では新しい知識はもちろん、現場にいると忘れてしまいがちな、基礎的な部分を改めて振り返っていただける内容となっているため、基礎がいかに大切かを実感させていただくことができています。また、研修会ではそれぞれグループに分かれてのグループワークをたくさん行っています。最初は初対面の方々と意見を交換することが恥ずかしかったり、苦手意識がありました。しかし、回数を重ねることで同じ職業に就いているはずなのに、自分にはない考えが毎回たくさん出てくることを面白いと思えるようになり、今では苦手意識の強かったグループワークに楽しんで参加できています。

私が東京ケアリーダーズに所属し一番よかったと思えることは繋がりが出来たことです。高齢者施設の介護士として就職するとなかなか外部とのかかわりというのは業務内でないものだと思います。その中で、東京ケアリーダーズというメンバーや、研修会に参加された方々との繋がりと云うのは非常に大きいものになっていると思います。様々な介護観や、抱えている悩み等を共有することで、今自分が職場で何をすべきなのかや、仕事に対するモチベーションにとっても影響を与られていると思います。

現在、東京ケアリーダーズでは、一緒に活動に参加してくれるメンバーを募集しています！メンバーの年齢も様々ですが、とても雰囲気良く活動を行えていると思っていますので、気になった方は是非一度研修会にご参加ください。次回の研修会は9月を予定しております。皆さんとお会いできることを楽しみに待っています。





看護職員研修委員会の活動報告

看護職員研修委員会 幹事
 社会福祉法人浴風会 特別養護老人ホーム第三南陽園
 看護師 たかはし けい
高橋 桂

看護職員研修委員会とは

看護職員研修委員会は、東京都高齢者福祉施設協議会における職種別委員会のひとつです。東京都内で高齢者福祉に携わる看護師が中心となり、委員・幹事として活動しています。年2回開催される研修会の企画・運営の他、情報交換会、イベントへの参加・協力などを行っています。

昨年の活動内容

令和5年度は、委員会（オンライン2回・集合形式2回）、情報交換会、研修会、アクティブ福祉のポスター作製と当日会場案内などを行いました。研修会は自分たちでテーマを決め、講師を選任し、講習内容を打ち合わせて開催します。昨年は「(超) 高齢者のエンドオブ・ライフケア」と題して、青梅慶友病院看護部長の桑田美代子先生に講演していただきました。集合形式の開催でしたが、施設勤務の看護師のみならず、地域包括支援センターなど多種の事業所から介護職員や生活相談員などの参加者も多く、充実した研修会となりました。

今後の活動について

コロナ禍でこの数年はオンラインでの活動が主となっていましたが、昨年度からは集合形式の開催も増えてきました。直接顔を合わせて活発な意見交換ができる集合形式と、勤務時間の調整がしやすく都内まで遠い方でも参加が可能なオンラインの双方にて今後も活動をしていく予定です。

私たち福祉施設で働く看護師は、制度改正や権利擁護、ハラスメントといった福祉業界全体の社会変化への対応に加え、感染対策・ICT活用・施設における医療行為の是非など日頃の業務でも多くの疑問や困りごとを抱えているのではないのでしょうか。同じ悩みを持つ看護師とのつながりを通じて、課題解決に向けた情報交換や研修会を行い、安心して業務に取り組めるようにサポートしていきます。

看護職員研修委員会の活動が気になった方！ 一緒にやってみませんか！！
多くの方の参加をお待ちしております。



▲研修会の様子



▲委員会の様子

福祉・介護の魅力にまつわるなんでもエピソード

生活相談員研修委員会 聖ヨゼフ老人ホーム

みょう えん その あきら
妙 圓 菌 晃

皆さんは「寮母」というお仕事をご存知でしょうか？

現在に置き換えると『介護職員』となります。

私が仕事をしている聖ヨゼフ老人ホームは、1974年7月に設立された100床平屋の施設です。私が入職した当時は、介護福祉士の制度が出来て数年だった為、当時の私は無資格で入職し、寮母として仕事をしていました。

今回は、入職後に担当していたご入居者様から励まして頂いたお話しです。社会福祉を学び卒業後に聖ヨゼフ老人ホームに就職しました。当時、素人

同然の私は、先輩職員から数日指導を受け直ぐに1人で業務を行う日々を過ごしていました。

そうした中で、ご入居者の終末を経験するなど、これまでに経験した事のない日々を過ごしてきた私は、今後の自分に不安を抱く時期がありました。

そんなある日、担当居室でご入居者の爪切りをしていた時の事です。爪切りをしながらついその気持ちを話してしまった事がありました。

その方は脳梗塞の為、半身麻痺があり言葉も話せない女性でした。私は話の途中でハッと気づき、謝りながら爪切りを続けていると、その方が左手で私の肩を叩いて、ぎこちなく左手の親指と人差し指で丸を作って見せてくれました。その時に見せてくれた笑顔と指で作ったOKは、私に「大丈夫」と言ってくれている様な気がして、私に力を与えてくれた出来事でした。

今振り返ると、その時になぜ不安だったのか、その原因さえ忘れてしまいましたが、その時のご入居者様が見せてくれた笑顔と指で作ったOKは、私にとって大切な忘れられないエピソードの1つです。



▲施設外観



編集後記

梅雨が明け暑さ厳しい日が続いている東京ですね。今夏はパリオリピックが開催され、この機関誌が皆さんの手元に届くころには日本のメダル獲得数も確定されていることでしょうか！

温暖化で異常な暑さとともに、ゲリラ雷雨も各所で起きています。新宿でも地下鉄の出入り口から流れ込む雨水に苦労されている通行人や駅員の方々に遭遇することもありません。

今夏の特集も大規模な水害、災害対策に備えてと題して、特養、介護、軽費、デイサービスでの取り組みをお伝えしています。1月に震災にあった石川県では半年以上たつてもいまだ復興のめどが立たずに避難所生活を送られている多くの方々があると報道されています。

これからは台風の時期でもあります。地域の方々、施設入居の方々とともに安心した生活を維持できるように社会福祉法人は運営、管理を充実していきたいと思えます。

今年度も「アクトエイブ福祉in東京24」が9月25日(水)に新宿の京王プラザホテルで開催されます。他法人の日頃の実践研究発表をリアルに聞けるチャンスです！皆様のご参加をお待ちしております。

社会福祉法人アゼリヤ会
特別養護老人ホーム あかね苑
施設長 大住 優

高齢協公式 SNS 更新中♪
フォロー、
よろしくお願いします 🐾



Facebook



KOUREIKYOU



高齢協公式
@TokyoKourei



高齢協会長
@koureiyou



東社協
東京都高齢者
福祉施設
協議会

